

「令和8年産水稻の高温対策のポイント」

令和8年7月24日

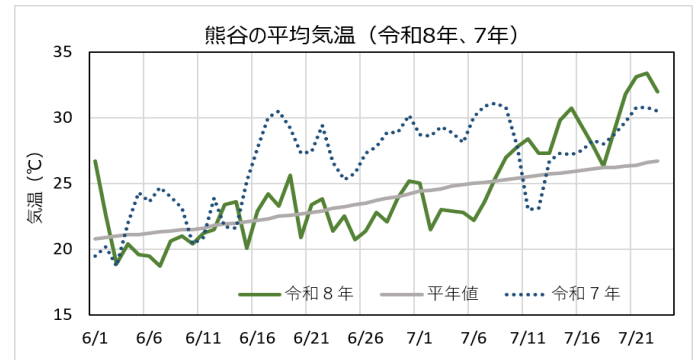
埼玉県農林部

猛暑襲来！高温の影響により白未熟粒の増加のリスクが高まっています。ほ場をよく確認し、適切な作業を実施しましょう。農作業時の熱中症にもご注意ください！

1 気象状況

関東甲信地方は7月20日頃に梅雨明けしたとみられます。

6月は気温が平年より低く推移し、7月中旬以降気温が上昇、梅雨明け後は猛暑となっています。今後も気温は高いと予想されているので、高温対策を確実に実施しましょう。



2 高温対策のポイント

（1）生育状況と適期作業の実施

農業技術研究センター内の5/1植「コシヒカリ」は、7月21日に出穂期を迎えました。平年に比べ3日早くなっています。中早生品種の「コシヒカリ」や「彩のきずな」では高温の影響を受けて生育が前進化しやすい傾向があります。ほ場をよく観察し、適期作業に努めましょう。

農業技術研究センターで公開している農作物発育予測アプリ「咲き玉くん」では、水稻の「移植日」に応じた「出穂期」、「収穫適期」等の予測データを提供しています。作業計画を立てる上での参考にご活用ください。

（2）穂肥の施用

葉色診断に基づく穂肥を適期に行いましょう。適期にはほ場を観察し、群落の葉色が「4」を下回った場合は、追肥を行いましょう。葉色が低下した状態では収量の低下と白未熟粒の発生リスクが高まります。

ア 早植栽培（5月移植）

穂肥を一度施用していても、出穂前10日頃の葉色（群落）が「4」以下の場合は窒素成分2kg/10aの追肥を行いましょう。

イ 普通期栽培（6月移植）

高温下で生育が旺盛になり、基肥で投入した養分を使い切ると、葉色が低下してきます。基肥一発肥料体系でも高温下では緩効性肥料の溶出が早まり、登熟期に期待される養分供給量が不足する場合があります。葉色（群落）を確認し、「4」を下回った場合は、同様に追肥を行いましょう。

【穂肥の目安】

「彩のかがやき」：出穂前25日頃に窒素成分で2kg/10a程度

「彩のきずな」：出穂前25日頃に窒素成分で2～3kg/10a程度

「えみほころ」：出穂前15日頃に窒素成分で2～3kg/10a程度

※ 詳しくは、ホームページ掲載の「彩のかがやき」、「彩のきずな」、「えみほころ」の栽培指針・栽培暦を御覧ください。

<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0903/gijututaisaku/08suitoukouontaisaku.html>

(3) 水管理

出穂前後各1週間は深水で管理し、それ以外の期間は間断かん水を行い、根の活性維持を図ります。梅雨の影響で中干しが不完全な場合は、間断かん水で田面が露出する期間を少し長くとり、土壌を固めるように管理しましょう。土壌が柔らかいまま収穫期を迎えると、コンバインが入れないことによる刈遅れや、急いで土壌を固くするための早期落水につながり、高温下では玄米の品質低下リスクが一段と高まります。

普通期栽培では、分けつの発生が旺盛になると考えられます。移植後30日程度で有効茎数が確保できたらすみやかに中干しを行いましょう。

(4) イネカメムシ等斑点米カメムシ類の防除

本年のイネカメムシは、6月下旬には4月中下旬移植の極早生品種のほ場（出穂期）で、7月上旬には5月上旬移植のほ場（出穂前）で、飛込みが確認されています。昨年ほど頭数は多くない様子ですが、被害を防ぐため、必ず防除を実施しましょう。防除適期は①出穂期～穂揃期（不稔対策）と②出穂期の8～14日後（斑点米対策）の2回です。

また、ホソハリカメムシやクモヘリカメムシ等の斑点米カメムシ類も県内各地のほ場や雑草地で多く確認されていますので、必ず防除を実施しましょう。

※ 県農産物安全課HPではイネカメムシの発生状況の調査結果や防除対策の情報提供を行っていますので御覧ください。

<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0907/nb/inekame/inekame.html>

◆ 農作物発育予測アプリ「咲き玉くん」◆

画面上で

①最寄りのアメダス地点選択

②対象作物と品種

③播種・移植日等

を入力して送信すると

予測結果が画面上に表示されます!



「咲き玉くん」二次元コード

アプリの利用は無料ですが、通常の通信料は利用者の負担となります。予測結果の向上に努めていますが急激な気象変化や栽培管理等によって前後する可能性があり正確性を保証するものではありません。本プログラムの利用により、農作物生産に何らかの支障が出た場合、経済的補償等の責任を負うことはできません。